

生涯教育研修活動報告書

細胞検査研究班

- 1 実施日時：2024年5月17日 18時00分～19時30分
- 2 会場：浦和コミュニティセンター第14集会室 教科・点数：基礎教科-20点
- 3 主題：知らなきゃ損！？ part13 ～標本作製プラスワンが活きた症例～
- 4 講師：鶴岡 慎悟（独立行政法人地域医療機能推進機構埼玉メディカルセンター
病理診断科）
：猪山 和美（自治医科大学附属さいたま医療センター）
：中山 美咲（防衛医科大学校病院）
- 5 協賛：なし
- 6 参加人数：会員 46名 賛助会員 0名 非会員 0名
- 7 出席した研究班班員：鶴岡慎悟 船津靖亮 急式政志 加藤智美 猪山和美 野本伊織
小川弘美 並木幸子 稲山拓司
- 8 研修内容の概要・感想など

本研修会の「知らなきゃ損！？」は、例年技術的な内容に焦点を当て、これから病理細胞診検査に携わる新人技師を主な対象とした研修会を開催しています。今回で13回目となる研修会のテーマは「標本作製プラスワンが活きた症例」とし、鶴岡、猪山氏、中山氏からの講演が行われました。

講演1では、鶴岡が「EBUS-TBNA ～ベッドサイドで経験した1症例～」と題して講演を行いました。EBUS-TBNA（超音波気管支鏡ガイド下針生検）で経験した症例をもとに、成書やマニュアルを参考にした従来の方法（以下従来法）に加え、臨床とのやり取りの中でプラスワンした診断に寄与した例について解説しました。参加者からは臨床医との関係構築に関する質問があり、活発な討議が行われました。講演では、ベッドサイドでの標本作製は、臨床医との積極的なコミュニケーションが重要であると強調されました。

講演2では、猪山氏が「LBC 標本 ～Cellprep auto 標本に焦点を当てて～」と題し、従来法に加えてLBC 標本を活用した症例について解説しました。残余検体をLBC 保存液に確保しておくことで追加検査が可能であることや、その結果から判定診断が変わる場合もあることが示されました。講演では、標本作製技術やLBC 標本の活用について詳述されました。

講演3では、中山氏が「髄液細胞診 ～LBCが有効活用できた1症例～」と題し、LBC標本が診断に寄与した症例を提示しました。LBCをテーマとした2つの演題を通して、会場からLBC標本作製と細胞像について議論が行われました。LBC標本は細胞の収縮などの従来法と異なる細胞像を示すため、判定診断の際には慎重さが求められますが、細胞の保持には優れた方法であり、併用することで有効活用できるとの意見がまとめられました。

これから細胞検査業務に携わる技師の方々には、標本作製が判定や診断に与える影響を認識し、日々の業務と研鑽に励んでいただきたいと思います。

提出日：2024年5月21日

文責：鶴岡慎悟